

観光地タイプ別にみる観光が作用した地域課題とその改善方策に関する研究

正会員 ○宇土 沙希* 同 姫野 由香**
同 長弘 颯太郎* 同 松島 大真*観光 持続可能な観光 地域課題
類型化 オーバーツーリズム 観光地マネジメント

1. 研究の背景と目的

2016 年頃から、一部の観光地では、観光客の著しい増加による住民生活の質や観光客の体験の質への悪影響といったオーバーツーリズムが問題視されている¹⁾。これにより、適切な観光地マネジメントのあり方が世界共通の課題とされている²⁾。

また、2021 年、2022 年に観光庁が開催した、観光産業の強化推進のための有識者会議^{注1)}において、観光は、宿泊業、伝統工芸・農林水産等の関連産業の裾野が広いため、地域の経済・雇用を支えるとともに、地域資源の維持・発展にも資する効果が期待されている。さらに、観光は諸外国との交流により、国際相互理解を増進するだけでなく、自国民が地域資源の価値を再確認し、自らの文化や地域に対する誇りを育てていく効果があるとされている³⁾。

他方、観光による効果が、日本各地の人口減少と少子高齢化の急速な進行を背景とした、地域経済の衰退・産業の担い手不足等の地域課題の改善に作用している事例も複数報告されている⁴⁾⁵⁾。一方で、オーバーツーリズムの指摘や、観光が地域課題の改善に作用した事例の報告⁶⁾は確認できるが、観光が地域課題の改善に作用している事例の全体を見据えた、地域課題の改善方策の傾向を明らかにした研究や報告は確認できない。このような事例の立地条件や観光資源の傾向を明らかにすることは、今後、各地域の特性にあった観光による、地域課題の改善方策を検討する手助けになると考える。

そこで本研究では、観光が地域課題の改善に作用した事例に着目し、①立地条件や②観光資源の種別の傾向を明らかにする。次に、①②の地域特性に基づいて事例を類型化し、各類型の地域課題や取り組みの傾向を明らかにする。その後、特徴的な事例のケーススタディにより、観光地の特性に応じた地域課題の改善策の詳細を明らかにする。

2. 研究の方法

日本国内において、地域課題に観光が作用している事例を、文献^{7)~15)}、観光庁による「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集」^{注2)}、「Green Destinations Top 100 Stories list (以下 GDTOP100)」^{注3)}の事例から収集する。

次に、クロス集計により、収集した事例の立地条件と観光資源の種別の関係性を明らかにする(3 章)。

3 章で把握した観光地の立地条件と主な観光資源の種別により、事例の類型化を行う。その後、類型ごとに、地域課題と取り組みの分類を集計することで、地域課題の改善策の傾向を明らかにする(4 章)。

3. 対象事例の選定方法と傾向の把握

3. 1 対象事例の選定方法

地域活性化等に関する文献^{7)~15)}から観光が地域課題の改善に作用している事例として 16 件、観光庁による「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集」^{注2)}に記載された 115 件、「GDTOP100」^{注3)}の国内事例 39 件の計 170 件を収集した。収集にあたっては、観光を要因とする課題として紹介されている場合でも、地域課題の改善に効果が波及している事例は選定対象とした。

また、本研究における地域課題とは、産業の担い手不足や文化の継承をはじめとした地域住民の生活環境等に生じている課題と定義する。そのため、観光を要因とする課題への取り組みのみが記載されている事例は除外し、計 51 件を研究対象とする。

3. 2 対象事例の立地と観光資源の特徴

観光地の立地と主な観光資源の傾向を明らかにするため、対象事例 51 件を、立地タイプと観光資源タイプによって分類する。立地タイプは、人流管理の観点より、観光客の分散の可否によって単一目的地型と地域観光型の 2 つに分類した(表 1)。観光資源タイプは、『観光学 基本と実践』¹⁸⁾の観光資源の価値の変動性と、安島¹⁹⁾と川原²⁰⁾の観光的価値理論より、3 つに分類した(表 1)。また、1 つの事例に複数の観光資源タイプが確認できた場合は、観光資源タイプを「複合資源」とした。立地タイプと観光資源タイプの定義と分類結果を表 1 に示す。

まず、表 1 の立地タイプに着目する。対象事例 51 件のうち、「単一目的地型」が 35 件、「地域観光型」が 16 件であった。観光が地域課題に作用している観光地は、「地域観光型」よりも「単一目的地型」に多い。「単一目的地型」に該当する地域は、「地域観光型」と比較して範囲が狭小であり、観光による改善策の効果を発揮しやすい可能性があると考えられる。

表 1 の観光資源タイプに着目すると、全 51 件のうち、「身体的人文資源」が 21 件、「複合資源」が 19 件と、観光資源タイプの大半を占めている。また、「複合資源」の中

Improvement Measures of Regional Issues by Tourism of Each
Tourist Attraction TypeUTO Saki, HIMENO Yuka,
NAGAIHIRO Sotaro, MATSUSHIMA Daishin

でも,自然資源と集落や町並み,史跡等の身体的人文資源の組み合わせが 17 件と最も多い。日本では一般的に,自然資源を利用した産業や町並みの観光地が多いためであると考えられる。

表 1 立地タイプと観光資源タイプの定義と件数

		定義	件数(件)/割合	
立地タイプ	単一目的地型	事例に示される観光地内で、観光客の分散が不可能、または、 観光客の総量規制が一定程度可能な場所	35/68.6%	
	地域観光型	事例に示される観光地内で、観光客の分散が可能、または、 観光客の入場を制限できない場所	16/31.4%	
観光資源タイプ	自然資源	山岳、高原・温原・原野、湖沼、河川・峡谷、滝、海岸・岬、 岩石・洞窟、動物、植物、自然現象、温泉	9/17.6%	
	身体的人文資源	史跡、神社・寺院・教会、城跡・城郭・宮殿、集落・街、 郷土景観、庭園・公園、橋・塔、年中行事、建造物、食	21/41.2%	
	相対的人文資源	動植物園・水族館、博物館、美術館、テーマ公園・テーマ施設、 芸能・興行・イベント	2/3.9%	
	複合資源	自然資源、身体的人文資源	17/33.3%	19/37.3%
		自然資源、相対的人文資源	0	
身体的人文資源、相対的人文資源		0		
自然資源、身体的人文資源、相対的人文資源		2/3.9%		
計			51/100%	

4. 事例の類型と各類型の特徴の把握

4. 1 立地と観光資源による事例の類型化

表 1 の立地タイプと観光資源タイプから,8 つの地域特性の類型を設定した(図 1)。

観光が地域課題の改善に作用した事例として収集した対象事例 51 件のうち「単一型複合観光地」が 17 件と最も多い。「単一型複合観光地」は,「単一目的地型」(35 件)の約半数を占めており,「単一目的地型」の多くの事例で,複合的な観光資源を有していることがわかる。

また,「地域観光型」に着目すると,「周遊型歴史観光地」11 件が,「地域観光型」(16 件)の過半を占めている。「地域観光型」の事例では,「身体的人文資源」にあたる郷土景観や年中行事等の地域特有の文化等を観光資源としていることがわかる。

「歴史観光地」をみると,「単一型歴史観光地」で 10 件,「周遊型歴史観光地」で 11 件と対象事例のそれぞれ 2 割ほどを占めており,観光が地域課題の改善に作用した事例は,郷土

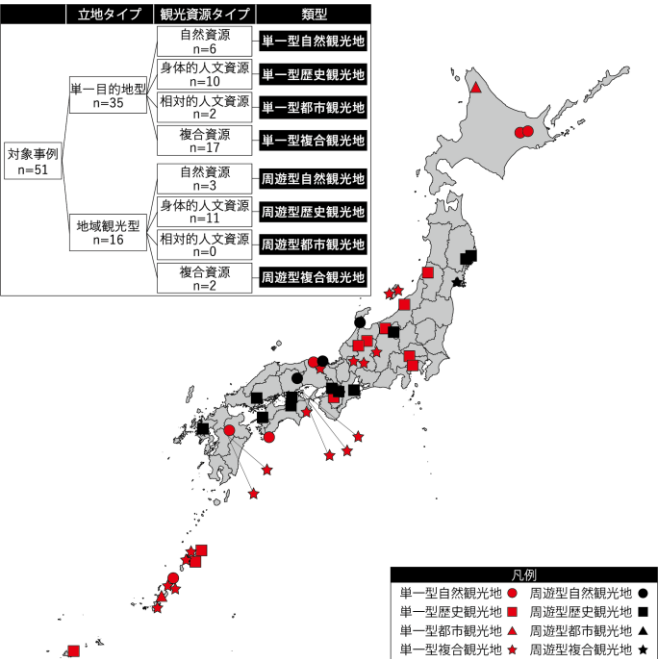


図 1 観光による地域課題の改善がみられた事例の類型と分布

景観等の身体的人文資源を有する地域に多いことがわかる。

4. 2 地域課題と取り組みの特徴

観光地の地域特性ごとに,地域課題と取り組みの傾向を明らかにするため,地域課題と取り組みをそれぞれ表 2 の定義により 7 個と 11 個に分類した。類型ごとの地域課題と取り組みの件数を表 3 に示す。

まず,表 3 の地域課題に着目すると,「地域文化の継承問題」が 21 件と最も多い。次いで,「人口減少」15 件,「農林水産業衰退」12 件,「自然環境問題」13 件と,合計で全体の 5 割(40 件)を超えている。また,全ての類型で「地域文化の継承問題」「人口減少」「農林水産業衰退」「自然環境問題」のいずれかが最多であった。つまり,観光が地域課題の改善に作用した多くの事例で,人口減少をはじめとした地域文化の継承や地場産業の存続等が地域課題になっていることがわかる。

その対応策としての取り組みの合計では「制度・計画策定」が 28 件で最多であり,次いで「商品開発」が 24 件であった。つまり,地域課題に対して行政による「制度・計画策定」が多く取り組まれているほか,地域資源を活用した商品開発も活発に行われていることがわかる。

各類型に着目すると,殆どの類型において「制度・計画策定」か「商品開発」が最多件数であった。一方で,単一

表 2 地域課題と取り組みの定義

		定義
地域課題	1 人口減少	人口減少,少子高齢化,過疎化,空き家の増加
	2 農林水産業衰退	農林水産業の担い手不足や活動継続,生産量の低下,耕作放棄地の増加
	3 地域工芸・工業衰退	伝統工芸の後継者不足,工芸品の生産量や売り上げの低下,技術の継承問題
	4 自然環境問題	動植物の減少,自然環境の悪化
	5 地域文化の継承問題	集落の存続,伝統文化の人手不足や継承問題
	6 災害復興	災害からの復興
	7 インフラ・観光問題	交通による環境負荷や公共交通運賃の高騰化,交通渋滞,観光を要因とする課題
取り組み	1 制度・計画策定	計画やルール,策定,制度の創設や導入,観光や地域課題の改善に特化した独自の課の設置等
	2 団体設立	団体の設立
	3 施設整備	公共性の高い公園や施設,設備の整備,レンタサイクル等
	4 民間施設整備	民間事業者による店舗の開設等
	5 広告活動	新聞の創設,テレビやSNSによる宣伝等
	6 調査	モニタリング調査やアンケート調査の実施
	7 資金調達	入湯税等の税金の徴収,ファンドの組成,財源の確保
	8 商品開発	特産品等の商品や体験プログラムの開発・販売
	9 担い手育成	担い手や人材の育成のための事業の実施,ガイドの養成等
	10 イベント開催	イベントやお祭りの開催
	11 環境保全	清掃活動や農法の開発,食品残渣の活用等

表 3 類型ごとの地域課題と取り組みの件数

項目 \ 類型		自然単一観光地		歴史単一観光地		都市単一観光地		複合単一観光地		自然周遊観光地		歴史周遊観光地		都市周遊観光地		複合周遊観光地		件数/割合
		件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%	
地域課題																		
1 人口減少	3	30%	0	0%	1	33%	7	21%	1	25%	2	15%	0	0%	1	33%	15	19%
2 農林水産業衰退	1	10%	3	25%	1	33%	6	18%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	12	15%
3 地域工芸・工業衰退	0	0%	2	17%	0	0%	3	9%	1	25%	2	15%	0	0%	0	0%	8	10%
4 自然環境問題	4	40%	0	0%	0	0%	8	24%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	13	16%
5 地域文化の継承問題	1	10%	7	58%	1	33%	7	21%	0	0%	5	38%	0	0%	0	0%	21	27%
6 災害復興	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	2	15%	0	0%	1	33%	4	5%
7 インフラ・観光問題	1	10%	0	0%	0	0%	2	6%	0	0%	2	15%	0	0%	1	33%	6	8%
計	10	100%	12	100%	3	100%	34	100%	4	100%	13	100%	0	100%	3	100%	79	100%
取り組み																		
1 制度・計画策定	4	25%	1	5%	2	33%	12	21%	0	0%	7	18%	0	0%	2	50%	28	19%
2 団体設立	2	13%	1	5%	1	17%	3	5%	1	17%	5	13%	0	0%	0	0%	13	9%
3 施設整備	1	6%	2	10%	2	33%	8	14%	0	0%	4	11%	0	0%	0	0%	17	12%
4 民間施設整備	1	6%	3	15%	0	0%	2	4%	2	33%	2	5%	0	0%	0	0%	10	7%
5 広告活動	1	6%	1	5%	0	0%	2	4%	0	0%	1	3%	0	0%	1	25%	6	4%
6 調査	1	6%	1	5%	1	17%	4	7%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	8	5%
7 資金調達	1	6%	1	5%	0	0%	2	4%	1	17%	4	11%	0	0%	0	0%	9	6%
8 商品開発	4	25%	4	20%	0	0%	10	18%	1	17%	4	11%	0	0%	1	25%	24	16%
9 担い手育成	0	0%	3	15%	0	0%	6	11%	0	0%	4	11%	0	0%	0	0%	13	9%
10 イベント開催	0	0%	3	15%	0	0%	5	9%	1	17%	6	16%	0	0%	0	0%	14	10%
11 環境保全	1	6%	0	0%	0	0%	3	5%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	5	3%
計	16	100%	20	100%	6	100%	57	100%	7	100%	38	100%	0	100%	4	100%	147	100%
該当事例数		6		10		2		17		3		11		0		2		51

型都市観光地では「施設整備」が 33%,周遊型自然観光地で「民間施設整備」が 33%,周遊型複合観光地で「広告活動」が 25%など,各類型で異なる取り組みも確認できる。

このように,主な観光資源や立地に応じて,その他の取り組みも併用していることがわかる。

4. 3 選出した事例の詳細

地域課題の改善方策の詳細を把握するため,対象事例 51 件から,7 事例を選出し,文献等によって詳細に調査を行った(表 4)。

7 事例の選出方法としては,条件 A. GDTOP100 や観光庁の先進事例集で紹介されている事例, B.複数の取り組みが確認できる事例の両方に適合する事例を,図 1 に示す各類型から 1 件ずつ選定した^{注 4)}。

まず単一型をみると,①沖永良部島では,人口減少や生業の担い手不足に対して,観光振興計画の策定や,体験型アクティビティ等の商品開発が取り組まれている。②竹富町では,集落と文化の保全に対して,保全団体の設立や環境保全活動のための入島料の徴収といった取り組みが行われている。③沖縄県では,空手の保存・継承に対して,沖縄空手振興ビジョンの策定や,交流拠点「沖縄空手会館」の利用等の取り組みが行われている。④与論島では,サンゴの白化現象や海岸環境の悪化等に対して,海洋ゴミの清掃や珊瑚礁のチェックの体験プログラム化等の取り組みが行われている。

つまり,単一型では,農林水産業衰退や自然環境問題等の単一の課題や類似した複数の地域課題に対して,「制度・計画策定」や「商品開発」等の複数の取り組みにより改善を図っていることがわかる。

周遊型をみると,⑤宮津市では,伝統工芸の後継者不足に対して,保存会の設立や藤織り体験を組み込んだツアーの企画等が行われている。⑥大洲市では,歴史的建造物の消失等の地域課題に対して,行政や金融機関等の連携による DMO の設立,まちづくりファンドの組成による町並みを再

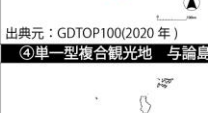
生する事業の資金調達が取り組まれている。⑦東松島市では,震災の被害による観光資源の壊滅に対して,観光計画の策定や官民協力による観光商品の開発といった取り組みが行われている。

つまり,周遊型では,単一型と比較して,地域工芸・工業衰退や災害復興等が地域課題となっており,その対応策として,団体設立や資金調達等が行われていることがわかる。

以上より,観光による地域課題の改善策として,以下のことが考えられる。

【自然観光地】特産品や体験型のプログラムの開発・販

表 4 選出した事例の概要

単 一 型	①単一型自然観光地 沖永良部島  所在地 鹿児島県大島郡知名町 人口 11,996 人 (2020 年) 主な観光資源 洞窟, ビーチ, 鍾乳洞, 海岸 地域課題 人口減少, 島の機能維持, 生業の担い手不足 (農業) 出典元: 持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 (2023 年)	取り組み 【制度・計画策定】 沖永良部島観光振興計画策定 【団体設立】 沖永良部島観光振興事務局開設 組織を法人化 (一般社団法人おきのえらぶ島観光協会) の発足 【民間施設整備】 観光交流拠点施設を創設 【広告活動】 ケイビング調査体験のプログラムのプロモーション開始 【調査】 来訪者アンケートの実施 窓口での特産品販売 【商品開発】 島のポータルサイト等を自主財源で整備・運営し, 特産品等の販売を開始 体験型アクティビティ等の企画・運営 取り組みの効果 自主財源の確保, 訪問客の増加, 観光による地域経済の活性化
	②単一型歴史観光地 竹富町  所在地 沖縄県八重山郡竹富町 人口 3,942 人 (2020 年) 主な観光資源 年中行事, 集落景観 地域課題 伝統的建築技術の継承, 集落と文化の保全, 地域特有の「うつくみ」※の精神の継承 出典元: 持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 (2020 年度)	取り組み 【団体設立】 「遺産管理型 NPO 法人たきどぅん」の発足 島内外の人による全国竹富島文化協会の設立 島民による「うつくみ精神」を保全するための財団の立ち上げ 【広告活動】 シンポジウム・講演会・会誌の発行による島の祭事・芸能の啓発活動 【資金調達】 全国で初めて地域自然資産法に基づく入島料の徴収開始 (2019 年) 入島料 (300 円/人) を島の環境保全活動に充当 【商品開発】 体験プログラムの実施, 特産品の開発・販売 取り組みの効果 定住人口の増加, 「うつくみ」の精神の保全, 島の文化の保存・継承
	③単一型都市観光地 沖縄県  所在地 沖縄県 人口 1,467,480 人 (2020 年) 主な観光資源 空手発祥地 地域課題 観光客の滞在日数が短い, 沖縄空手の保存・継承・教育, 後継者不足, 研修生の減少, 道場の経営困難, 門徒数の減少 出典元: GDTOP100(2020 年)	取り組み 【制度・計画策定】 県庁内に空手の振興課の設置 沖縄空手振興ビジョンの策定 沖縄空手振興ビジョンロードマップの策定 【施設整備】 世界中の空手愛好家を迎える交流拠点として「沖縄空手会館」の利用開始 【広告活動】 空手発祥の地として PR 実施 【調査】 実態調査の実施 取り組みの効果 沖縄空手の保存・継承・教育
	④単一型複合観光地 与論島  所在地 鹿児島県大島郡与論町 人口 5,115 人 (2020 年) 主な観光資源 珊瑚礁, 海, 砂浜, 与論十五夜踊り 地域課題 オニヒトデ大量発生, サンゴの白化現象, 海岸環境の悪化 出典元: GDTOP100(2021 年)	取り組み 【施設整備】 行政 (与論町) による主要な海岸に「拾い箱」の設置 【広告活動】 活動紹介のプロモーションビデオ制作 新聞・テレビなどのメディアによる周知 海岸清掃活動等を表彰し人材を確保 【調査】 環境省から委託されたモニタリング調査 民間団体による珊瑚礁調査 【資金調達】 与論町の財源の一部としてふるさと納税を珊瑚礁と共生する環境保全活動等に活用 【商品開発】 海洋ゴミの清掃・珊瑚礁のチェックを体験プログラム化 【担い手育成】 小中学校で海を守る人材の育成のための海洋教育を開始 行政による海岸清掃活動, ゴミ袋等の資材支援, ゴミの回収・処理, 有害生物の駆除 取り組みの効果 海洋ゴミの減少, 海岸環境の回復, 珊瑚礁の保全
	⑤周遊型自然観光地 宮津市  所在地 京都府宮津市 人口 16,758 人 (2020 年) 主な観光資源 天橋立 地域課題 伝統工芸の後継者不足 出典元: GDTOP100(2023 年)	取り組み 【団体設立】 「丹後藤織り保存会」設立 【施設整備】 「藤織り伝承交流館」が設立 【商品開発】 藤織り体験を盛り込んだツアーを企画 【担い手育成】 藤織り講習会の開催 【イベント開催】 藤織物展を定期的に開催 取り組みの効果 伝統美術の保存・普及, 後継者の育成
	⑥周遊型歴史観光地 大洲市  所在地 愛媛県大洲市 人口 40,575 人 (2020 年) 主な観光資源 歴史的町並み 地域課題 景観保全地区の人口減少による放置された不動産, 高齢化, 町の荒廃, 歴史的建造物の消失 出典元: GDTOP100(2022 年), GDTOP100(2023 年), 持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 (2023 年)	取り組み 【制度・計画策定】 歴史的建造物の所有者への補助金の整備や条例施行 まちづくりコンサルタント 2 社との PPP 協定 【団体設立】 空き家管理のための NGO の設立 行政, コンサルタント, 宿泊業, 金融機関による DMO の設立 行政, 大株, 金融機関, コンサルタントの分野からなるチームを構成 【民間施設整備】 改装した歴史的建造物を宿泊施設として賃貸 歴史的建造物の賃借や買取, 改装を実施 【資金調達】 伊予銀行によるまちづくりファンドの組成 【担い手育成】 「まちづくり大学」の開催 地域住民向けの勉強会を月 1 回実施 取り組みの効果 景観を維持しながら持続可能な循環を構築, 33 戸の空き家の解消, 20 社の事業参入
	⑦周遊型複合観光地 東松島市  所在地 宮城県東松島市 人口 39,098 人 (2020 年) 主な観光資源 海岸の景観, 特産品 (牡蠣, 海苔) 地域課題 東日本大震災の被害による観光資源の壊滅 出典元: 持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 (2023 年)	取り組み 【制度・計画策定】 観光計画の策定 【広告活動】 SNS による宣伝 【資金調達】 ふるさと納税からの寄付金をトレッキングコースの維持管理資金として活用 【商品開発】 官民協力による「オルレ」というトレッキングコースの作成 取り組みの効果 トレイルイベントが地元企業間の協力のきっかけとなる, 地元の小中学校の活動にも取り入れられ, 世代を超えたコミュニケーションツールとなる, 避難路としての活用, 地域への誇りの醸成

※「うつくみ」とは, 竹富島に古くから根付いている「一致協力すること」を意味する。島での生活全般に関わる言葉・精神のことである。

売等の商品開発が、地場産業の担い手不足等の地域課題に対して効果的であると考えられる。

【歴史観光地】保全活動等を行う団体の設立や、資源保全のための活動資金を調達する仕組みの構築が、集落・文化等の保全に対して効果的であると考えられる。

【都市観光地】振興計画等の制度・計画策定が、空手等の芸能の保存・継承といった地域課題に対して効果的であると考えられる。

【複合観光地】新聞やテレビ、SNS による広告活動や体験プログラム等の商品開発が、海岸環境の悪化や震災による観光資源の壊滅に対して効果的であると考えられる。

5. 総括

本研究では、観光が地域課題の改善に作用した国内事例から、観光地の立地条件や観光資源の種別の傾向として、範囲が狭小な地域では観光による改善策の効果が発揮しやすい可能性があることを明らかにした。また、自然資源や郷土景観等の地域特有の資源を複合的な観光資源として利用している観光地が多いこともわかった。

その後、立地と観光資源の組み合わせから 51 事例の類型化を行い、地域課題と取り組みの傾向を明らかにした。

観光が作用した地域課題は、「人口減少」や「自然環境問題」、これに関係する「農林水産業衰退」や「地域文化の継承」も多いことがわかった。地域課題への取り組みは、「制度・計画策定」や「商品開発」が活発に行われていることがわかった。

ケーススタディから、単一の課題や、サンゴの白化現象や海岸環境の悪化などの類似した複数の地域課題に対して、複数の取り組みによる改善が図られていた。また、地域の観光資源を活用した資金調達の仕組みの構築や体験型の観光商品の開発・販売、SNS を活用した広告活動等の取り組みも行われていることがわかった。

本研究では、各類型の地域課題の改善策の傾向を明らかにしたが、地域課題に対して、どのような取り組みが行われているのかを検証することが今後の課題である。また、観光が地域課題の改善に作用している事例のケーススタディにより、取り組みを行っている団体に着目し、運営体制を調査する必要があると考えられる。

【補注】

- 注 1) アフターコロナ時代における地域活性化と観光産業に関する検討会のことを指す。
注 2) 参考文献の 2) 16) 17) の 3 つの事例集を指す。
注 3) Green Destinations の、公式ホームページよりレポートが確認できた 2020 年から 2023 年の GDTOP100 の国内事例を指す。
注 4) 条件①②に適合する事例が 2 件以上あった場合は、取り組みの数が最多なもの事例を選出した。また、対象事例 51 件内に周遊型都市観光地に該当する事例がなかったため、選出できなかった。

【参考文献】

- 1) UNWTO 「‘Overtourism’ ? - Understanding and Managing Urban Tourism Growth beyond Perceptions, (Executive Summary)」2018 年, p. 4 <https://www.e-unwto.org/doi/pdf/10.18111/9789284420667> (2024 年 2 月 13 日最終閲覧)
- 2) 観光庁・UNWTO 駐日事務所「日本版持続可能な観光ガイドライン」2020 年 6 月 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf> (2024 年 2 月 13 日最終閲覧)
- 3) 観光庁「アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて～稼げる地域・稼げる産業の実現～(最終とりまとめ)」令和 4 年 5 月 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/iinkai/content/001483896.pdf> (2023 年 12 月 7 日最終閲覧)
- 4) 福山貴史, 西山徳明 (2021, 10) 「未利用地域資源の活用による観光まちづくりの発展プロセス比較分析に基づくインターナル・マーケティングの有効性に着目して」(社)日本都市計画学会都市計画論文集, No. 3, pp. 1231-1238
- 5) 公益財団法人日本離島センター「季刊しま 離島振興法改正」第 68 巻, 第 4 号, 令和 5 年 3 月 31 日
- 6) 横田彩夏 (2024, 3) 「持続可能な観光に向けた土地利用規制に関する研究」日本建築学会九州支部研究報告, 第 63 号, pp. 257-260
- 7) 浦山佳恵, 須賀丈, 畑中健一郎 (2022) 「長野県開田高原における木曽馬文化を活用した草地保全の取り組み」(社)日本地理学会日本地理学会発表要旨集
- 8) 渡辺安菜, 岡村祐, 篠朱莉, 菅井純也 (2022, 12) 「御師集落の観光化に関する事例調査—御岳山・羽黒山・大山・戸隠御師集落の立地や施設設備状況に着目して—」第 37 回日本観光研究学会全国大会学術論文集, pp. 215-220
- 9) 梅川智也, 吉澤清良, 福永香織 (2015, 9) 「温泉地における安定的なまちづくり財源に関する研究—入湯税を中心として—」日本観光研究学会機関誌, No. 1, pp. 91-100
- 10) 竹田英司, 小林善輝 (2020, 6) 「長崎県波佐見町の観光経済：農業と窯業の産業観光」長崎県立大学論集 (経営学部・地域創造学部) 第 54 巻第 1 号
- 11) 河本大地, 重永瞬, 菊川翔太, 森下航平, 西山幸志, 渡邊一輝, 小林友莉, 石川聡一郎, 原川優羽紀, 高原佳穂 (2023) 「柿産地としての奈良県五條市における生産・流通と担い手—「日本一の柿のまち」の課題と可能性—」(社)日本地理学会日本地理学会発表要旨集
- 12) 武田美恵 (2020, 3) 「徳島県海部郡美波町における遍路宿を活用した地域活性化に関する考察」日本インテリア学会論文報告集, 30 号
- 13) 町田知未 (2021) 「北海道中川町における地域資源の観光利用に至る過程と主体間の相互関係」(社)日本地理学会, 日本地理学会発表要旨集
- 14) 張明輝 (2020, 3) 「妖怪文化による地域活性化に関する研究—インバウンド観光の視点に基づく—」福知山公立大学研究紀要, 第 3 号 1, pp. 151-164
- 15) 藍場将司, 原田一宏 (2022) 「地域資源としての大島軸の生産の現状と存続に向けた取り組み—奄美大島の事例」環境情報科学学術研究論文集 pp. 185-190
- 16) 観光庁「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集 2020 年度」<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001395438.pdf> (2024 年 2 月 13 日最終閲覧)
- 17) 観光庁・UNWTO 駐日事務所「持続可能な観光の実現に向けた先進事例集」2023 年 3 月 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001610480.pdf> (2024 年 2 月 13 日最終閲覧)
- 18) 溝尾良隆「改訂新版 観光学 基本と実践」古今書院, 2015 年 1 月
- 19) 姫野由香, 大堂麻里香, 西悠太 (2016) 「観光まちづくりのライフサイクルと観光戦略の傾向」2016 年度日本建築学会大会, 都市計画部門, 研究懇談会資料集「観光地域は都市計画・まちづくり」に何を期待するのか?」 pp. 9-12
- 20) 川原晋, 岡村祐 (2017) 「「地域観光プランニング」試論—地域の総合力で推進する「地域観光」像とその計画技術—」観光科学研究, 10 号, pp. 99-104

*大分大学大学院工学研究科博士前期課程

**大分大学理工学部理工学科建築学プログラム・准教授 博士 (工学)

*Graduate Student, Oita Univ.

** Associate Professor, Div. of Architecture, Dept of Science and Technology, Faculty of Science and Technology, Oita University, Ph.D